



とよおか

第 35 号

平成19年4月27日

# 議会だより

発行／豊丘村議会 編集／議会だより編集委員会 印刷／龍共印刷株



佐原区民会館を彩る吉野桜

## 3月定例会

3月定例会のようす／平成19年度予算概要	2～3
予算特別委員会の質疑から／議会活動報告	4～5
予算特別委員会の質疑から／陳情・請願	6～7
一般質問のようす／追跡	8～14
議会議員任期満了による退任あいさつ／ 「私の一言」／私がんばっています／編集後記	15～16



この議会だよりは、再生紙を使用しています



区画整理ができた中平住宅団地

# 平成19年度第1回定例会

## 一般会計 当初予算 30億6千300万円

**十九年度より通院・入院  
中学生まで無料化**

平成十九年度第一回定例会が三月二日から十九日までの十八日間の日程で開かれた。主なものは条例改正十一件、規約の変更三件、十八年度一般会計補正予算、特別会計四件、平成十九年度一般会計、特別会計五件、請願、陳情三件、辺地に係る総合整備計画変更、村道路線の認定について二件が審査され全議案全会一致で可決されました。

### 一般会計予算

### 歳入

歳入の主なものは村税六億九千八百一十千円（村民税二億七千五百三十一万三千円、固定資産税二億八千四百二十九万一千円）地方譲与税八千二百萬円。地方消費税交付金六千五百萬円、自動車取得税交付金三千六百萬円。最も大きい地方交付税は十二億八千四百九十一万三千円を計上しました。

国庫支出金は、まちづくり交付金事業補助金一億四千四百萬円。黒谷線道路改良事業補助金四千六百七十五萬円等で、総額十三・三%増の二億八千九百三十二万八千円となりました。県支出金は、国庫負担事業に

### 歳出

対する県負担金の他、松くい虫防除事業等、林業補助金三千二十六万五千円などです。又、財産収入は中平住宅団地をはじめ村有不動産売却収入七千万円を計上。村債は前年比三十・六%減の二億二千五百四十万円（まちづくり交付金七千五百萬円。臨時財政対策債一億三千万円。道路橋梁債千八百万円）などとなっております。

### 八月九日NHKラジオ体操

総務費の中で企画費の報酬で後期基本計画策定委員会二十五万五千円（第四次振興計画の後期の見なおしの委員会）ラジオ体操実行委員会報酬六万九千円はNHKラジオ体操を八月九日

村民グラウンドで開催するための予算です。  
庁舎周辺総合検討委員会十七万三千元（旧役場跡地利用に係る検討委員会）等が新しい項目となっております。

**有線事業費**の報償費で番組制作協力謝礼十三万円は村民参加の番組作りのための予算です。

**田村、伴野区民会館建設  
関連に九千二百万円計上**

コミニティ促進費の中で委託料四百万円（設計監理委託料）工事請負費八千八百万円（施設整備工事請負費）となっております。いずれも田村、伴野区民会館建設費用でまちづくり交付金の補助を受けて村が事業主体で実施するものです。

**選挙費**は村長、村議選五百三万八千元、県議会選挙三百六十四万七千元、参議院選挙五百四十三万四千元となっております。本年は選挙の年で大幅に増えております。

**後期高齢者医療広域連合運営費**負担金二百四十七万円は、平成二十五年四月から「後期高齢者医療保険制度」がスタートし

ます。この制度は七十五歳以上を対象とした独立した保険制度で全市町村が加入する広域連合の負担金です。

**農業振興費**の中で有害鳥獣防除対策事業補助金は六千二百八十万円、猟友会補助金七十万円、捕獲報奨金三百頭分四百五十万円、柵、網補助金百万円等となっております。

**林業費**は松くい虫防除対策事業に四千五百二十八万円。樹種転換事業三百万円。空中防除事業に（七十ヘクタール）百五万円を計上しました。

**住宅団地造成事業に一億  
六千七百万円を計上**

この事業は本年度新設事業で人口増対策の一環としてまちづくり交付金を活用して、村営戸建賃貸住宅を建設しようとするもので、一箇所にゆとりをもった敷地で戸建住宅を八戸建設して人口増をめざそうとするものです。

**消防団員優遇助成金に百  
万円を補助**

この事業も新規で団員家族一

人千円で家族構成人分を、村内で使用できる商品券を送り家族の消防への協力に感謝し活性化を図ろうとするものです。

**人材育成費に  
二百万円計上**

落語の講演に五十万円（林家たい平）中学生対象人材育成事業に百五十万円を計上。今年実施した事業が宗教色が強い施設等での事業のため実施には問題もあるとの意見もあり今後検討するとの事です。

**特別会計予算**

**国民健康保険特別会計**

平成十九年度予算は五億七千万円となっております。ほとんどが保険給付費であり出産一時金が三十万円から三十五万円に葬祭費は三万円から五万円に増額となりました。

**老人保健医療特別会計**

平成十九年度予算は八億二千五百万円です。前年比八・四%増となっております。医療給付費が八億六百万円となっております。

り六千二百八十万円の増となっております。

**介護保険特別会計**

平成十九年度予算は六億八千四百万円となっております。前年比、一千七百八十万円の増で、介護サービス等給付費が五千五百万円増となっております。

**簡易水道特別会計**

平成十九年度予算は一億五千

四百万円となっております。前年比二千二百萬円の減額となりました。大きな事業として長沢排水地増設工事に一千万円を計上しました。

**下水道事業特別会計**

平成十九年度予算は二億八千六百万円となっております。前年比三千萬円の減となっております。主なもの公共下水道と農集排の維持管理費です。



老朽化で新築される伴野区民会館



# 義を構築する時

平成十九年度当初予算は、三十億六千三百万円で対前年比、五百万円円で微増となっている。これはまちづくり交付金事業を昨年に引き続き実施するためである。主な質疑は次の通りである。

## 後期基本計画策定委員会などを設け、明確な方向付けを

唐澤議員 むらづくり委員会もある中で、新しい二つの委員会は村の基本計画も考慮に入れると、どんな委員の選定を予定しているのか。

総務課長 現在のところは白紙である。後期基本計画策定委員会は村の総合計画にもとづくが変更もありえる。庁舎周辺総合検討委員会は、役場跡地、福祉センター、保険センターまで含めて検討いただきたい。

唐澤議員 新しい任期の中で考えてもらうべきだが、残り少ない任期のなかで村長はこの問題についてどう考えるか。

村長 伊藤課長と同じである。

## 消防団員協力助成金として商品券を消防団員の家族へ初めての支給

松村議員 どのような商品券を考えているか。

総務課長 村内全域で使えるオジナル商品券を、消防団員の家族一人当たり千円分支給したい。

## 東洋大学セミナーハウスを現在経営している神稲いのちのフロンティアの様子について

北澤議員 賃貸料が約束の十二月を過ぎても未納だと聞か。助役 事実である。セミナーハウス全般の管理にも問題があり、活動自体も少ない。早い時期に改善の動きが見られないと契約も考え直さざるを得ない。

村長 もう少し見守って欲しい。私としても十二月頃までには結論を出す。

## 北部広域連合の燃えるゴミを入れる袋のサイズと口をとじる紐について。

唐澤議員 ゴミの袋が高いと言われているが他地域との比較は。村長 松本は安いと聞いている。この地域もプラスチックも同時に焼ければと思う。

川野議員 袋が小さくて、とじる紐が細い事が大変問題となっている。広域のことではあるが、豊丘村としても改善の主張をしつかりするべきだ。

## 有害鳥獣対策の補助金のあり方について

唐澤議員 電気柵や網の補助金として五千メートル分計上してあるがいままでと同じ様な条件とするのか。

産建課長 三反歩の面積があれば個人でも認めるようにしたい。

松村議員 罾については補助金をつける考えはないか。

産建課長 罾はすぐ壊れるのでどうかと思う。

北澤議員 捕獲数の割合は罾が全体の五割以上を占める。検討する必要がある。



## 議会活動報告 一月～三月

◎一月

三日 成人式

七日 消防団出初め式

十六日 第一回臨時議会

全員協議会

十八日 高森町議会議員との交流会

三十一日 全員協議会

◎二月

一日 南信州広域連合議会運営会議

南信州広域連合議会あり

方研究会

十二日 地方分権・道州制講演会（鼎文化センター）

会（鼎文化センター）

十四日 住み良い村づくり研究

十九日 南信州広域連合議会第一

一回定例会

# 予算特別委員会の質疑より

# 日赤奉仕団の意

## 日赤奉仕団員の減少 に歯止めを

片桐(秀)議員 日赤奉仕団の現状と村としての考えは。ないと困る組織だが、任意の団体という事もあるのでは。

住民課長 二十五万円の助成金を出して三割削減という事があつたが削減はしなかつた。防災という立場から消防団につくものというところをえ方をしている。若い人が入らない理由に、ユニホームの事もあつたように思える。

松村議員 助成金の事よりも、組織が昔からのしきたりややっていることに思える。

若い人を入れていくには組織の中で話し合いをする事が必要。村が助言をしながら、防災、助け合いという、日赤奉仕団と同じ事を目的とする新しいものを描くことも良いのではないか。

菅沼議員 消防団と同じように防災活動をするわけなので報酬を出す必要もあるのではないか。

片桐(秀)議員 協働の時代、反対の方向にいつているように思う。山間部の方では、昔から地域で助け合う認識が強く、高齢で、できなくなれば若い人とボランティア精神でつながつて

いる。助成金を出す事と事業を行わなければならず、責任が重くなるのではないか。むしろ、PRを積極的にして、任務を明確にし、伴に助け合うという意識を高めて村全体で考えていってほしい。

川野議員 日赤の長は村長である。強制はできないが大事な組織であると村民の皆さんにお願いを頂きたい。

村長 日赤の組織の深刻さは聞いている。地域を守ることから区にも後押しをお願いをしている。お金ではないと言われるが認識を高めるきっかけづくりのためにも、定例的なものには、役員の方だけでも手当について予算化することも必要なのかとも思う。日の丸、エプロンのイメージを変える中で、新たにつくるより、今までの組織を大事にして十九年度にむけて区にもお願いをしていきたい。

## 公民館活動の今後の とりくみについて

北澤議員 公民館活動についての現状はどうか

教育長 本館活動は実権をもっている。分館は区といっしょにやる行事やグループ活動中心に

行っている。教育委員会事務局長 かつては活発であったが、生活に追われ忙しいため役員の為り手がなくなつてどこでも困つていっていると聞く。

レクリエーション的な事は盛んに行っている。

北澤議員 公民館の分館活動は大事になってくる。子供からお年寄りまで集めてやるのが分館の仕事である。役員の為り手がいないため役員が固定化するようになる。それが事業のマンネリ化につながると思う。手当など含めて考える時期ではないかと思う。



防災訓練中の日赤奉仕団員

二十六日 全員協議会  
◎三月

二日 第一回定例会 開会  
全員協議会

五日 議会だより編集委員会

六日 総務産建常任委員会

七日 総務産建常任委員会

社会文教常任委員会

八日 社会文教常任委員会

九日 予算特別委員会

全員協議会

十二日 一般質問

十三日 予算特別委員会

全員協議会

十五日 第一回定例会 再開

十六日 中学校卒業式

十七日 南・北小学校卒業式

二十四日 保育園卒園式

二十九日 厚生連運営委員会

(議長)

# 予算特別委員会の質疑より

## (前ページからの続き)

### 図書館の学習室 中学・高校生に人気

下平(豊)議員 図書館の利用状況はどうか。

教育長 四万冊を目標にしている。今は、三万五千冊、一年目は際立って増えたが、その後安定し、大勢の人に活用されている。特に高校生、中学生による学習室の利用度が高いようだ。本の数も増えてきているので、一人での対応は大変で一・五人は必要である。

### 施設整備工事請負費 について

北澤議員 村営バス千駄木のバス停までの延長をして、四月から運行するのか。

総務課長 四月一日から運行する。福島線の路線延長のため千駄木会所の付近の改良を行う。

北澤議員 山田、滝川路線の運行はどうなっているか。どの位話が進んでいるのか。

村長 長沢は、会所まで四月一日から申請し実施できる見通しである。

それと山田については、地元と共に協議して、小学生、保育園が全員乗れる体制で、全員の相違ではないが、別便をださなといけないのもう少し時間をかけて検討したい。十九年度にかけて話し合いを持ちたい。

滝川地区についても、小学生、保育園について別行動でないとう無理である。山田滝川地区は、十九年度に、じっくり時間をかけて検討する。

### セミナーハウスの 修繕料について

川野議員 セミナーハウスの雨漏りの補修に五十七万八千円計上してあるがどこを直すのか。

総務課長 管理棟の屋根の雨も

りに対処するもの。何回か修繕したがいつこうになおらない。スレートを張つたらどうか計画している。

川野議員 セミナーハウスの管理について、今後運営していく場合、その都度要望があれば、村では対応していくのか。

村長 大きな修繕費については当初から約束し村では対応すると決めてあるので管理の中の修理は村でやる。

川野議員 村では、大きな負担にならないのか。

村長 大きな負担にならないよう日頃の管理をしてもらう。

川野議員 毎日の細かい色々の管理を極力やってもらおうよう村からも注意してほしい。

村長 村でも、その都度注意をしていくよう気をつけている。



### 自らつくる 地域づくりについて

松村議員 何件申請があったのか。

総務課長 九件申請があった。その内六件採択した。

松村議員 はずれた三件は、要件に満たないのか。

総務課長 要件にみえないものは数件あったのだが、宝くじ助成に振り替えたものもある。この事業に合わないものもあった。唐澤議員 宝くじでお祭の道具など入れかえてあるものもあるが適合しないのは、この事業に適合しないのを、出してしまった

というズレがあるのか。  
総務課長 審査会を開いて、審査して結果を出した。  
唐澤議員 審査は、どういうメンバーでやったのか。

総務課長 メンバーは、村長、助役、教育長、村づくり委員長、農業委員長、社協の会長、総務課長と総務課が事務局としてやっている。

総務課長 九件の内三件のなかに福島区、田村区の獅子の関係がある。それは宝くじで振り替えた。田村区からた諏訪神社の石階段の改修工事がありましたが、地区の皆様が工事をするのは不可能であると思わず採決にした。



充実してきた図書館



# 条例の制定

# 規約の変更

三件

◎豊丘村副村長の定数を定める  
条例の制定（可決）

◎公民館条例の一部を改正する  
条例の制定（可決）

◎南信州広域連合規約の変更  
（可決）

◎豊丘村障害者地域生活支援事業及び障害者自立支援法の施行に関する条例制定（可決）

◎豊丘村屋内ゲートボール場（スポーツ館）設置条例の一部を改正する条例（可決）

◎長野県市町村総合事務組合規約の変更（可決）

◎豊丘村有線放送施設の設置及び管理に関する条例の一部改正する条例の制定（可決）

◎豊丘村福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例の制定（可決）

◎長野県市町村自治振興組合規約の変更（可決）

◎豊丘村の職員定数条例等の一部を改正する条例の制定（可決）

◎収入役を設置しない条例を廃止する条例の制定（可決）

◎村道路線の変更について（可決）

◎常勤特別職の職員の給与、及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定（可決）

◎収入役を廃止する条例の制定（可決）

◎村道路線の変更について（可決）

◎教育委員会教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例の制定（可決）

◎収入役を廃止する条例の制定（可決）

◎村道路線の変更について（可決）

◎一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定（可決）

◎収入役を廃止する条例の制定（可決）

◎村道路線の変更について（可決）



## 陳情・請願

◎トンネルじん肺根絶の抜本的な対策を求める意見書の提出に関する請願

（採 択）

提出者 全国トンネルじん肺根絶長野原告団 団長 黒田敬一 紹介議員 前沢光昭

◎「品目横断的経営安定対策」と米価下落対策にかわる意見書の提出に関する請願

（採 択）

陳情団体 飯田農民組合 代表者氏名 組合長 松村隆平 唐澤美恵子

# しつもん



## 質 農工商プラス観光立村豊丘を

### 答 次代を的確に捉え柔軟性の対応を

菅 沼 明 人

**質問** 吉川村長は三選立候補を正式に表明し、行財政改革の実行など六項目をかかげ村長選が展開されておりますが、基本的な考え方、取組みはどうか。

**村長** 村民憲章を基本として第四次豊丘村総合振興計画十年を基本構想として、次代を的確に捉え柔軟性を持って対応していきたい。

**質問** 豊かな自然文化を活かし多様なライフスタイルが実現できる観光立村豊丘をキヤッチフレーズに、どうやったら豊丘村へ観光客の誘致と人口増定住促進ができるか、豊丘村はいい村だ・豊丘村へ行って見たい・豊丘村へ住んでみたい、この要求を満足させることが重要な施策と思うが村長はどう考えるか。

**村長** 農林業、商工業と観光事業を取り組んでいく時代になっていると考えます。

そこで皆さんからの提案に対して、行政としても、出来るだけ協働の力で、国、県、村の制度が上手に生かされるよう考えていきたいと思っております。

**質問** 国の介護予防等拠点施設整備事業など研究されたか、飯田下伊那で温泉のないのは、豊

丘村と泰阜村だと思えます。将来廃校などへ温泉を引き老齢になっても健康で毎日温泉浴と水中運動は如何でしょうか。

**村長** 村内の観光名所、そして自ら信州大学、民間業者などと調査した温泉掘削など行政も一緒に取り組めることなども、十九年度に行います。



温泉の脈があるという堀越地区

役場の新庁舎が完成したのが平成十年ですが、それ以来旧役場跡地については、本格的な検討がされずに経過しました。

町村合併のこととか、県道市田停車線の拡幅改良工事とか、新庁舎になってからの使い勝手はどうとか、旧役場跡地の活用を検討する上で影響があると思えることが、ある程度落ちつくまでは結論づけることは待った方が良くと考えてきました。

もう一点、この十年間程で、村の財政状況が激変してきております。村の収入源で大きな比率を占める地方交付税が、平成十年頃は二十億円を超えていたのですが、現在は十三億円前後まで落ち込んできております。

## 追跡! No.1

### 旧役場跡地と周辺の有効活用

尚、国は歳出削減を図ると言われており、財源の少ない地方の小さな行政の運用は厳しさが増すと考えねばなりません。

次に老朽化が進んでいる福祉センターの改築についてです。

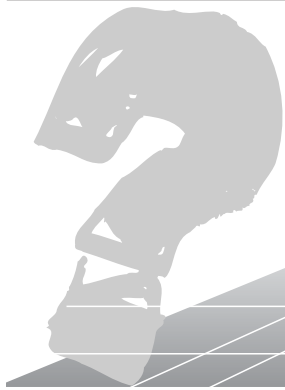
図書館の他にどんな施設が必要なのか、現有施設の有効利用は考えられないか、後々維持管理費が少なくて済む方法はないかを考えて方向づけねばなりません。

そして残された跡地を

共同住宅案、憩いの場案、宅地分譲案他の論議の中で方向づけをしなければなりません。

再度浮上するであろう合併論議の中で、北部地区の何等かの拠点施設の場所として考えられないか?それまではイベント広場として活用する案等も有力。





# いっぱん

## 質 平成十八年度の繰越金はいくらか 答 平成二十年には基金の取り崩しも

川 野 孝 子

**質問** 豊丘村の財政状況がどの様な状況にあるのか把握するひとつの目安として、平成十八年度の繰越金がどの程度になるのか、予測される繰越金額を聞きたい。

**村長** 十九年度当初予算には五千万円を計上しており、現実には現状の予備費計上額、又、今後の特別交付税の収

入見込み等考慮し、一億五千万円前後が見込まれる。よって新年度当初予算への計上額との差が約、一億円程生じると考える。

**質問** 今後近い将来、基金の取り崩しが避けられないと予測されているか村長に聞きたい。

**村長** 今後も村営住宅の建設や福祉セ

ンターの建て替え等の大規模事業も控えており、財政見通しの中でも平成二十年度には財政調整基金あるいは公共施設整備基金のどちらかを取り崩していかななくてはならないと考える。行政改革をはじめとして歳出さく減はもちろん、出来るだけ基金の取り崩しは最小限に抑えて行財政運営に心がけたい。

水を使う器具のいたみが心配されるが水質検査はやるか

改築が待たれる福祉センター

**質問** 器具のいたみが早いという事は、ちつ素とは違う別の要因が考えられるが水質検査をやるかどうか。

**村長** 水質検査は年一回、四十項目の検査をしている。豊丘村の水は硬水と言われている。そのせいではないかと思われる。

## 追跡! No.2 「だいち」の今後の取り組みは

昨年十月、特定非営利活動法人「だいち」とスタートしてから約半年、「だいち」の現在の状況について理事長の目下部勝英さんに話を伺った。

前理事長の片桐義憲さんが都合により辞任され後任の理事長に選出された目下部さんは堀越出身の五十三歳。

理事は現在八名、目下部さんに抱負を聞いてみた。だいちの役目は第一に豊丘村の産業振興に取り組む事文化面も含めた都市部との交流にも力を入れたい。外からの風を豊丘村にとり入れたい。その為の情報発信が非常に大切になってくる。現在「だいち」のホームページはあるが動く画像を取り入れ、より充実を計りたいとしている。

今までも取り組んでいるりんごのオーナーを含めた観光農業はこれからも力を入れていきたい。これからは竹の子狩り、イチゴ狩り、桃のもぎ取りツアー等多種多様の取り組みが期待される。

毎年行われている富士市吉原第三中学校の受け入れも今年は約百十名。受け入れ農家は決定しているとの事。又、修学旅行の受け入れも昨年は七百八名にぎやかになってきている。「だいち」の正会員は現在、団体会員が十一名。年会費が一万円。個人の正会員は六名。年会費が五千円。この他に賛助会員というのがあり。これは入会費が千円。ただし議決権は無いとの事。正会員は議決権があるとの事。

なお、「だいち」に対しては、村から交付金という形で平成十九年度の予算では千九百万円余りが認められている。しかし、村としての関わりは離れつつあり、今後の「だいち」の運営、取り組みについては変化も懸念される。

質 保育園と小学校の今後のあり方は

答 二つの小学校は存続していく様に

筒井博

質問 現在、中学校、南北小学校、保育三園共によく整備され順調に運営されております。

しかし、ここに来て全国的な少子化に歯止めがかかりません。

豊丘村でも例外なく少子化の流れは更にすすんでおります。

こうした社会動態の中で保育園と特に北小学校の今後のあり方についてど

の様に考えておられるのかお尋ねします。

村長 現在保育園が三園、小学校が二校あり中学校とピラミット型になっております。特に平成十八年度に生まれる子供さんの数は三十八名。これからも大きく出生の数が増える可能性は少ないが人口増対策等をすすめる上で三つの保育園と二つの小学校は存続していく様に行政運営をして行く事がベターではないかと思う。

教育長 ある程度の人数が必要だと云う意見も当然ですが、この問題について議論を始めると結論が出ない決定打がないまま推移すると云うのが今迄でした。今後教育委員の中でも検討を重ねるつもりです。

保育園長 保育園の民営化については全く消えてしまったわけではない。

質問 私は民営化反対論者です。子育て支援の一番重要な部分である保育園をより充実させ保育士さん方を督励してよりよい保育園行政が公で運営される様に又、北保育園にも未満児保育を取り入れられる様要望致します。

少子化で議論がある北小学校



質 郷土沢ダムはどうなるか

答 現状のままです

松井尚子

質問 長野県が脱ダム宣言をして早六年経過している。県は、

庁内組織で利水対策推進会議を開き、新たな利水対策が決定した。豊丘村でも、規模を縮小してでも造る計画はあるか。その旨を村井知事に陳情する気持ちがあるのか。

村長 時期を見て要望していきたい。三つの井戸掘削について完成を見ているので。

質問 安全、安心、おいしい飲料水を飲みたい、自然と調和する最善の利水対策を考えているか。

村長 飲料水であるので、安全、安心ということは大切なことである。水道法でも水質基準というような一つの基準を設けてそれぞれ村の皆さんに供給者として、安全な水を使ってもらっている。

質問 水循環の保全を図るためにも専門家のご意見を聞きながらダムを縮小し検討を進める気持ちはありますか。将来の子供のためにも住民の意見を真摯に聞きその内容を踏まえ責任ある判断をお願いします。



ダム予定地の道路はできたが

農業者後継者対策

質問 いかにかに若者が農業後継者にならないのか。現在は機械化が進み、なぜ魅力を感じないのか。原因はどこにあるのか。

村長 一言で言うとなかなか汗して報われん事と所得が少ないということがあるのではないかと。

質 「母子センター」の開設は

答 広域連合で発言して参りたい

片 桐 秀 人

質問 昨年四月から松川町の日赤病院が医師の退職で分娩扱いができなくなっている。更に小児科も閉鎖されたままである。地域医療が崩壊していく中で、広域連合は地域医療を守る自衛的な取り組みが必要ではないか。産科医師不足の中で当面の対策として昔あった「母子センター」と言う形の助産所の開設ができないか伺いたい。これは医療法との関係で飯田市立病院との連携が

必要となるが、広域連合の執行者の一人としてどう考えられるか伺いたい。村長 当地域、産科医療体制を構築していく必要があると考えているが、若い皆さんの生の声を伺いたい。昔と比べて母体が弱く、抵抗力がない時代になっている。健全な母体づくりの協力体制の必要性も感じている。質問 出産は全部医療で囲まれた中でなくてはできないものではないはずである。ローリスクで自然分娩のできると判断されるものは母子センターでのお産も可能と考えるが、その点もう一度伺いたい。村長 活動されている皆さんから毎月情報をもらっている。やはり認識不足だったのかなと思ってい



院の日赤病

不足の産科医師の。質問 少子化対策は生む前からの支援も必要ではないか、妊婦健診の無料化はできないか。村長 当然少子化対策として必要なことなので並行して進めて行きたい。

質 妊婦無料健診の拡大について

答 ある程度回数ふやす事は必要

片 桐 眞 理 子

質問 妊婦無料健診、村では前期と後期の二回分が行われている。これまで国の予算計上されてきた助成は約二回分。これが平成十九年度では、ほぼ倍増することになった。少子化対策のためのもので、妊婦健診の助成に限ったものではない事は承知をしているが、厚生労働省によると最低でも五回以上が必要とされている事から五回程度は公費負担を、との方針が出されている。国の助成を上回って実施している町村も少なくない。少子化、人口増対策のためにも必要な事と思うがどうか。村長 厳しい財政ではあるが母子の健康、少子化対策のため、また経済的理由で受診をあきらめる事のないよう、ある程度回数をふやし支援をしていく事は必要と思う。

内容について伺いたい。村長 定員の穴埋めとは考えていない。あくまで定数とは別枠である。募集となると、日赤の減少の中、消防団だけの構想では進められない。どちらの団もなくてはならない組織、団ごとの活動でなく、役員の負担を軽減できるよう、連携を密に合同共同で良い方向にむけていく。

消防団の充実について

質問 消防団員の不足が課題になっっている。村でも団員確保に工夫をこらしているがすぐには解消されるわけではないと思う。女性消防団員の募集を団員とは別枠で考えているという事だが



有事に備えての訓練



質 税負担増分を福祉に

答 それはできない

前 沢 光 昭

質問 ○六年度は定率減税半減などによる影響で、多くの人の負担が上がった。とりわけ非課税だった人の影響は大きく、それを基準にした国保・介護保険料の負担増も大きい。様々な控除が廃止、見直しになり、もう控除してらえるものがないという声もあった。

財源移譲の影響で村の住民税千五百七十二万増えている。本来軽減されていた人達の福祉に回すべきと思うがどうか。

村長 予算構成比では民生費は増えている。弱者に目を向けた行政運営は必要と思うが、住民税の増額分を福祉に回すということとはできない。

質問 民生費が増えたのは自然増、それに純然たる「福祉」ではない。

子育て環境の充実

質問 今回の保育料の軽減の幅はどの位か。また第三子からの保険料は半減となっているが、さらに無料とできないか。

村長 階層によって違うが、おおよそ千円から二千円くらいこの幅。第三子の保険料無料



J A河野支所に移った児童クラブ

は内部でも話し合ったがやらないこととした。しかし財政状況、近隣町村の状況を見る中で当然今後の検討課題になろうかと考えている。

質問 少子化で対象者自体が少なく、予算自体でもそれほどかからないはず。このことは是非進めていただくよう、ここで要求しておきたい。

質 後年度負担をどう減らすか

答 繰上償還などを検討

松 村 正 三

質問 十九年度末、起債残高四十億円余。又、今後の起債に対する交付税措置の低率化は、まぬがれないだろう現状下にもあると思われる。

村政懇談会での今後の財政見通しの中では、歳出超過の部分について、起債、プラス基金の取り崩しでの財政運営が示されているし、特別会計、特に下水道特別会計では起債の償還分について全額一般会計からの繰り入れがなされている。

こうしたことが、今後の財政に重い後年度負担となると思われるが、後年度負担をどのよう

に押さえていくのか。

村長 現在国においては、保証金なしの繰上償還制度も検討されているとも聞く、高金利のもの、あるいは交付税措置率の低いものを繰上償還できると働きかけ、後年度負担の軽減につとめたい。

又、特別会計への一般会計からの持ち出し、繰り入れということについても、一般会計からみておるがための低料金での利用料だということの交付税への影響があることも含め、財政担当に対し、その運用を考えるよう、現在



起債の償還が続く下水道施設

指示をしているところだ。  
要望 いずれにしても厳しい中にあるので、例えば繰越金についても、前年度の繰越金を次年度事業での起債を起す部分へ回せる部分があれば回しながら、後年度負担につながらないような事業内容の検討や財政運営に当たっていただきたい。

質 住民参画社会の構築をどう進めるか

答 政策形成に住民参加を心掛ける

丸 岡 茂

質問 前回時間切れで途中で終わったので、自治意識の高揚について引き続き質問したい。総合振興計画にもある「住民参画社会の構築」について、どう努力されたか。広報の質の向上が求められるが。

か研究はしているが、質のことまではまだ及ばない。

質問 日常的な仕事の中にも、意識と努力を望む。今あるよいものを活かす、その一つ、豊かな自然や田園風景について、農地を守る農業者の高齢化が顕著だが、その対策や団塊世代への期待はどうか。

村長 この課題は、人口増対策にもつながる。農業委員会の各種活動や営農センターにも期待。団塊世代とも意見交換し、協働を進められればと思う。

質問 以前、遊休農地対策に關し、農業という経済行為では対応しきれなくなつたとき、公費を使つても守っていくべきではと質し、村長は前向きに答えられた。その姿勢は今も同じか。

村長 変わらない。創設した自らつくる地域づくり事業もそのの一側面がある。

質問 よいもののその二。穏やかな村民性に、困難に立ち向かう厳しさも含めた自治意識をマッチさせてこそ、地域で支え合う社会の構築につながると思う。

村長 同感。よい村づくりのためには是非そうありたい。



農地を守る活動が

質 保育所の民間委託はすべきではない

答 行政が責任を持つ中で検討していく

唐 澤 啓 六

質問① 最少の経費で最大の効果を上げるという行政の効率化は、一面では必要であるが「改革」の美名のもとに、公約責任である行政分野を際限なく民営化あるいは民間委託という形でその責任を縮少していくことは許されないと考える。村の責務、公約責任と役割についての基本認識を問う。

もらっているが処遇には大きな差がある。ある程度平等に分かち合えるスタイルになれば、お互いに気持ちよく良い保育につながると思われる。財政問題と職場内の良い環境づくりのために、行政が一切責任を持つ中で民間委託の議論をしてきたい。

② 本村における行政改革は平成八年度に策定された「大綱」のもとに、具体的方策と実施方法について検討され順次実施されつつあるが、その一つに保育所運営の「民間委託」がある。

保育所の運営は、公的責任の大きな行政分野の一つであり、安易に民間委託すべきではないと考えるがどうか。又保護者への説明は現時点でどうなっているか。

村長① 行政の領域は、村民の皆さんが安心して暮らせる地域社会をつくることである。

② 保育行政は、行政の大きな任務であると位置づけられている。保育所運営の財源が一般財源化され、一億近い人件費も国の手当は十分でない。こうした中で、正職員と嘱託職員とで頑張つて



行政の責任で民間委託の議論を

質 十九年度当初予算方針は

答 骨格予算でなく通常予算で

下 平 豊 久

質問 十九年度当初予算の基本的な編成方針につき質問します。

首長の改選期にあたりながら本格的な予算編成をされたがその基本姿勢と二期八年の村政を担つての自己評価についてお聞きしたいと存じます。

村長 予算編成では、以前は骨格予算もあつたが余裕のない現在通常の予算編成とした。

自己採点ですが、対話の村政を掲げ取り組みその推進ができたと評価しております。

質問 予算編成概要の中で全職員員の英知を結集した施策づくりに、職員全員が参加し経営意識をもつて対処し、自主性を生かした独自の地域づくりが求められていることから、職員の新しい発想や政策形成能力などの資質向上に積極的に取り組む為の予算を計上しているが、村長の考えをお聞き致します。

村長 豊丘では、先駆けて行政評価委員会を立ち上げた、自治体職員として村づくり、地域づくりにあたって、与えられた仕事でなくして積極的に前へ出る心がけと行動が非常に大事ではないかなと思つておるわけです。



選挙の出番を待つ七つ道具

質問 今回の村長選は、現職と新人の激しい選挙となる。

選挙戦では互いに政策を前面に掲げた論戦を展開してほしい。

間違つても、中傷や誹謗でなく正々堂々とした政策での論戦を大いに期待したい。

村長 住民性の良さを選挙でも堂々と展開し選挙後握手の出来る環境での選挙を願つています。

質 小学校・保育所の統合は？

答 現状を維持したい

下 平 喜 隆

質問 北部の町村を見ても行政運営方針が色濃く予算面にも反映している。村が十九年度の人口増問題の切り札として村営賃貸住宅八戸の建設案を予算に盛つた。人口増を計るには住宅と職場の確保を同時に進行させることが有効と考えるが、企業誘致のための予算を半減したことも含め村の将来を語つてほしい。

村長 北部町村が連携して企業誘致や観光振興につとめる必要がある。基本は地に着いた地味な行政内容が将来の産業振興につながると思われる。

質問 未来にむけての予想、企画、立案が不足していると言われているが。

村長 私は近隣町村とくらべても早めに対応してきたと思う。

質問 十八年度中に生まれた子供は、豊丘村全体で三十七人だった。今後の予想からしてもそう子供の数は増えそうもないと助役も分析している。三年後には三十七人が三保育所へ、六年後には二小学校へ通うことになる。小学校と保育所をそれぞれ統合する必要がある。統合した事で余る予算を保育料



三園制を維持

の軽減や特別保育の充実、専科教員の配置に使うことが出来ると思う。

村長 地域のこころである学校、保育園については、なんとか人口を増やすために精いっぱい取り組み、村民の皆さんの協力の中で現状の二校三園制を維持して行きたい。



# 改革時代の4年間



## 退任あいさつ

議長 吉川 玲

平成十五年四月の改選により選出されました、私達十四名の議員も四月二十九日をもって任期が満了となりました、

この間村民の皆様よりお寄せいただいた、ご意見、叱咤激励、ご協力に深く感謝申し上げます。

省みますればこの四年間、国の三位一体改革により、地方交付税の減収による財政の問題など、多くの課題をかかえる重要な時期に、村民に対する行政サービスの下下をどう押さえていくのかを基本に議員一丸となつて取り組んで参りました。

その一旦を思いおこしてみますと、十五年第二回定例会において議員提案により収入役を設け置かない条例を郡下に先駆けての制定で、経費削減を目的とした厳しい選択となりました。

議会改革では、議会のあり方研究会を設置し、検討の結果、常任委員会を三委員会から二委員会に減し、村民に開かれた議会を目指し、原則非公開であった全ての委員会、全員協議会を原則公開にする規則の改正を行いました。行政との連絡を密にするため月例の全員協議会を設け翌月の村の事業、行事等の報告を受け共に村政運営に協力す

る体制を作りました。

又議会活動を理解してもらい村民の意見を聞く機会にと「いつでも、どこでも、何人でも議会を呼んで下さい」と提案し村民によびかけました。

議会主催の地区懇談会を議会初の試みとして村内六会場で開催し多くの方々に出席をいただきました。今後も続けてとの要望が出され今後も計画がされるものと思えます。

議員定数の問題については研究委員会に於いて、研究を重ね、それぞれの意見を集約の結果十六名を二名減らして十四名とする事となりました。

議員報酬の削減については十八年度三%削減の答申でしたが議会自ら五%削減で三月末までしましたが、十九年度の答申は前年なみに削減との答申でしたが、改選期でもあり新議会にて判断をしていただく事となりました。

最後になりましたが、村当局におかれましても議会審議にご協力いただきました事に感謝を申し上げます、村民の皆様のご健勝を祈念申し上げます。議会を代表しての退任のあいさつとします。

シリーズ「私、がんばっています」

今回は、奥内で山間地域の農業を守ってられる木下勝美さんのお宅におじゃましました。

木下勝美さん(五十六才)は、ご家族はお勤めをされている二人の息子さんと四人家族です。



私が以前このような原稿を書いたのは、十九年前。せつかく意見を提言しても体制的にはあまり変わっていないですね。

今回は、昨年話題になった議員定数について話をします。

私の一言

市町村合併という国の方針により、豊丘村も色々模索しましたが、自立独立という選択をしたのは御承知の事だと思います。その折り、飯田市と合併したら

議員定数の削減を

東 宏吉 下市場

市会議員は人口的に見て、一人か二人と言われました。それが何で村単位になると十六人も必要なんですか。前回の選挙では、二人欠員の無投票という事態となり、欠員のまま四年間を過し、その間議員定数削減の議論はつくしたと思います。その結果が現在の議員数十四と、二人の欠員分を削減したと言いますが、どこが減っているのですか？ 行財政改革、又民間で言うリストラとは、現状ある組織、システムをまず全面否定し、それから再構築する訳ですから、痛みを伴います。この原稿が皆様の目にふれる頃は新村長、議員が誕生していると思います。村政は一番身近な政治です。高い理念と強い志をもって頑張ってください。

農業をやっている一番困ることとは、農繁期に人出のないことだそう。そんな時、二人の息子さんか最も頼もしく見えると目を細められました。

さて、このところ山間地域では有害鳥獣と後継者問題が深刻化しています。里山の農地の荒廃が進み、昔ながらのふるさとイメージの山村風景が薄れつつあります。そんな中で奮闘されているのが木下さんです。大切な農地を荒らしまわる獣に業を煮やし、罟と猟銃の狩猟免許を取得し、有害鳥獣駆除に尽力されています。その腕前は、この一年間でシカやイノシシを実に六十七頭捕獲したそうです。「勝美さんのおかげで獣が減ってきた」と地域の方々から賞賛



豊丘の自然を愛する木下さん

の声を筆者もよく聞きます。木下さんの楽しみはとお聞きしたら真つ先に「自然を楽しむこと」と答えられました。時には大人の握りこぶしもある松茸を採ったり、ハチ追いをしたり、養蜂は趣味が高じて今では村一番の養蜂家とか。自然の草花や花木から集められた蜂蜜は、不老薬として愛好者も多く注文に応じるのに大変とのことでした。豊丘村の自然を愛し、山間地域の農業を守って、これからも『自然を楽しむ達人』として頑張ってください。



編集後記

昔からよく言ったものだ「暑さ寒さも彼岸まで」と、彼岸が過ぎれば急に暖かくなり桜も一週間も早く咲いた。今年も四年に一度の統一地方選の年、県議選も新人二人が立候補し選挙戦に。村議選は現職、新人の一騎打ちとなった。

村議選は三月中旬頃には噂されていた予定者もそろった感があり今回は選挙戦となる事は確実である。前回定数を二名減じたにもかかわらず、二名欠員となった。この事については色んなところで議論があり議会としても行政に関心のある方の立候補を求めてきた経過があり、歓迎したい。

いずれの選挙も正々堂々と戦って村民の付託に答えてほしいものである。最後に、私達十四名も四年間お世話になった事に感謝し、議会だよりもさらに研究し情報提供としての使命を發揮してもらおう事を念じます。

お世話になりました。

編集長 川野孝子 北澤 貢

松井尚子 片桐眞理子

下平善隆 吉川 玲